

人形浄瑠璃

文楽

二〇一九年三月 地方公演

主催 文楽協会 後援 文化庁 助成 芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



昼の部

義経千本桜
椎の木の段
すしやの段



夜の部

義経千本桜
道行初音旅
新版歌祭文
野崎村の段



写真:吉本昌二

2019年3月8日(金)

◎昼の部 13:30開演 (13:00開場)
◎夜の部 17:30開演 (17:00開場)

倉敷市芸文館ホール

倉敷市中央1丁目18番1号 TEL.086-434-0400
JR倉敷駅(山陽本線)から徒歩15分/バス中央2丁目下車すぐ

[全席指定] (当日各500円増) ※未就学児の入場はご遠慮ください。

特等席4,000円、一等席3,000円、大学生以下1,000円

平成30年7月豪雨災害復興支援事業 第33回倉敷音楽祭

〈ご予約・お問合せ〉 (営業時間 9:00~17:00 土・日・祝日は休み)

アルスクらしきチケットセンター 086-434-0010

〈インターネット予約〉 倉敷音楽祭2019サイト
<https://arsk.jp/m-fes/>

●チケット取扱プレイガイド 電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード490-681) <http://t.pia.jp/>
【倉敷】倉敷市芸文館・インディスク(天満屋倉敷店4F)
【岡山】ぎんざや・岡山シンフォニーホールチケットセンター・岡山県音楽文化協会
●発売日 12/11(火) 会員先行発売、12/13(木) 一般発売
主催/倉敷市・倉敷市文化振興財団・山陽新聞社 共催/倉敷市教育委員会
協賛/公益財団法人JFE21世紀財団

二〇一九年三月 地方公演 配役表

昼の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 芳穂 大夫

義経千本桜

椎の木の段

口 竹本 南都 大夫 橋本 伴善 大 吉田 義 悠

鶴澤 燕 二郎 橋本 女房 小仙 桐竹 紋 吉

奥 豊竹 咲 大夫 吉田 玉 彦 勢

鶴澤 燕 三 吉田 玉 彦 勢

すしやの段

前 竹本 津駒 大夫 若葉の 内侍 桐竹 紋 臣

竹澤 宗 助 いがみの 権太 吉田 玉 男

後 竹本 織 大夫 弥左衛門 女房 桐竹 勘 壽

鶴澤 清 志 郎 平彌 維 助 盛 吉田 和 生

すしや 弥左衛門 吉田 玉 志

梶原 平三 景 時 吉田 清 五 郎

すし 買 大 ぜ ぜ しい

村の 役 人 大 ぜ ぜ しい

重 兵 大 ぜ ぜ しい

翌月 大明鏡社中

夜の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本 小住 大夫

義経千本桜

道行初音旅

橋御前 豊竹 芳穂 大夫 橋御前 吉田 文 昇

狐 忍 信 豊竹 靖 太夫 狐 忍 信 吉田 清 五 郎

ツ 竹本 碩 太夫

鶴澤 清 植 太夫

鶴澤 寛 太郎

野澤 錦 吾

鶴澤 燕 二郎

新版歌祭文

野崎村の段

中 竹本 碩 太夫 娘 おみつ 豊松 清 十 郎

豊澤 富 助 手代 小 助 桐竹 紋 臣

前 竹本 小住 大夫 丁 稚 久 松 吉田 玉 佳

野澤 勝 平 親 久 作 吉田 玉 也

後 豊竹 靖 太夫 下 女 およし 吉田 玉 延

野澤 錦 糸 娘 お 榮 吉田 一 輔

ツ 鶴澤 寛 太郎 駕 籠 屋 吉田 玉 路

駕 籠 屋 吉田 和 馬

お 勝 桐竹 勘 壽

船 頭 吉田 玉 替

翌月 大明鏡社中

義経千本桜

椎の木の段 すしやの段

源義経によって平家は滅亡。しかし、平重盛の嫡子維盛は生きていて高野山に入つたとの噂。都の近くに身を潜めていた維盛の妻若葉の内侍と若君を連れ、主馬小金吾武里が高野へと向かいますが、途中、吉野の下市村で、親からも勘当された悪者、いがみの権太に金をゆすり取られた上、追手にあい、討死。

実は、維盛は、かつて重盛に恩を受けた弥左衛門、つまり権太の父の店で、奉公人の弥助として匿われていました。事情を知らない妹お里は、父が熊野浦から連れて来た弥助に首つだけ、今夜の祝言が楽しみでなりません。けれども、内侍が宿を求めて訪れ、真実が明らかになり、一生連れ添うつもりでいた夫を失ったお里の慟哭…。

そこへ、弥助の正体を見抜いた源頼朝の家臣梶原景時が。妹の逃がした維盛夫婦を追い、戻つて来た権太が差し出したのは、縄をかけた内侍と若君、そして、維盛の首。手柄をほめ、梶原が去るや、怒つて権太を刺す父。が、内侍、若君と見たのは、権太の妻子、首は、弥左衛門が偶然遺体を見つけ、維盛の身代わりにとひそかに持ち帰っていた小金吾の首。権太は、たまたま弥助の正体を知つて心を改め、愛しい妻子を身代わりにして、維盛一家を助けたのでした。

ところが、昔、重盛に命を救われた頼朝の本心は、維盛を助け、出家させることだつたと判明。妻子を犠牲にする必要などなかつた…。権太は、今の死に様も悪の報いだと悟り、これまでの悪事を悔いて絶命。維盛は誓を切り、家族と別れ、高野へ。

人形浄瑠璃の全盛期、延享四年(1747)、竹本座初演。竹田出雲(二代)、三好松治、並木千柳による五段読みの時代物で、「音原伝授手習鑑」「坂名手本忠臣蔵」とともに浄瑠璃三大傑作に数えられています。

昼の部でご覧いただくのは、全篇の山場となる三段目。「平家物語」に見られる維盛の物語―源平の合戦の最中、戦場を離れ、都に残した妻子を恋慕しつつ高野で出家し、那智の沖で入水―を踏まえ、「すしや」では、現在も奈良県吉野郡下市町で営業されている「つるべすし弥助」を舞台としています。

義経千本桜

道行初音旅

大和の源九郎狐の言い伝えを取り入れた四段目の華麗な道行。道行の最高傑作といわれ、聞きどころ、見どころ、たつぷりです。

平家を滅ぼしたのち、謀反を疑われ、頼朝に追われる義経は、吉野山に潜伏。それを知った養妻静御前が、義経の家来佐藤忠信を供とし、吉野をめざして大和路を旅します。満開の桜の中、義経を思つて静が打つ鼓「初音」は、大昔、雨乞いのために雌雄の狐の革で作られ、義経が法皇から賜わり、静に形見として与えたもの。実は、この忠信は鼓の子、つまり狐…。狐独特の表現や早替わりもお楽しみください。

新版歌祭文

野崎村の段

大店の娘お染と丁稚久松の、許されない主従の恋。しかも、お染には結婚が決まり、久松には、養い親久作の妻の連れ子、おみつという許婚がいました。この恋の行く末を心配し、また孝行なおみつの幸せを願う久作は、店で失敗した久松が実家に戻されたのを幸い、おみつと祝言をあげさせることに。待ちに待った祝言が突然決まり、おみつは大喜び。ところが、久松を逃つてお染が…。

あくまでも恋を貫こうとするお染。その強い思いに打たれ、一度は恋を諦めた久松も、一緒になれなければ死ぬとの意を再び固めます。久作は、遣ならぬ恋を思い切るよう説得。涙ながらに別れを約束する二人。しかし、おみつは、心中の覚悟を見抜き、二人を添わせるため、自身の幸せを諦めて厄に…。

安永九年(1780)、竹本座初演。お染、久松の心中(1710)を題材とし、新たな悲恋を盛り込んだ、近松半二の上下二巻の世話物で、上の巻の「野崎村」は文楽の代表的な演目のひとつ。お染の美しいウツキや、お染と久松が船と駕籠とに別れて野崎村(大阪府大東市)から大坂へと去つて行く段切の、華やかで躍動的な三味線は、大塚有名です。

◎字義記号をこまめに。脚によつては本義を見にくく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
◎出演者の所属その他の種別や事務所は、役名より後目を参照してご確認ください。
◎「あらすじ」は「あらすじ」を参照してください。
◎開演中の写真撮影・録音撮影などは、権限無断で撮影・録音・放送を行うことはできません。